



THE JTSU-E JOURNAL



ホームページ 公式 SNS(X)

所在地：〒135-0044
東京都江東区越中島3-5-10

電話：03-6458-5603 | H P：http://jtsu-e.com
FAX：03-6458-5605 | メール：union@jtsu-e.com

発行人：佐々木 宏 充
編集人：奥 富 亨

2024年 号外
10月05日

月1回発行/1部20円
(組合員の購読料は組合費に含む)

2024年 9月24日 JR 東日本の「ワンマン運転」を考える院内集会

～ 私たちは快適で利用しやすい鉄道の運行を求めています ～



金儲けにひた走る「経営のワンマン暴走列車」

私たちがそのブレーキを！

主催者あいさつ (要旨) 中央執行委員長 佐々木 宏充

いま発生している問題をクリアしないまま、
長編成ワンマン運転を進めることは危険だ！

いま、JR東日本が推し進めているワンマン運転は、安全・安心を置き去りにした施策そのものと言えます。私たち輸送サービス労組は、労働組合として職場の声を団体交渉などでJR東日本の経営陣にぶつけてきていますが、抜本的な対策を取らないまま、来年3月に「長編成ワンマン運転」に突入しようとしています。私たちは、ワンマン運転そのものに絶対反対という姿勢ではありません。しかし、いま現在も発生している問題をクリアとされています。

公共交通機関として、CSRの観点から社会的責任を！
手を取り合って人々が暮らしやすい社会の実現を！

昨今、JR東日本の安全が揺らいでいます。直近では、9月19日に東北新幹線が時速315キロで走行中に列車分離（はやぶさ、こまちの連結が外れた事象）を起こしてしまいました。一部には「分離した車両が無事に止まったのだから良いじゃないか」との声もありますが、私はそうは思いません。時速315キロもの高速走行中に列車が分離した際、仮にもどちらか一方が故障で止まらなかったら、それが後ろ側の車両だったら、またはブレーキのかけ具合が異なり後ろ側の車両が前の車両にぶつかることになったら、どうなるか考えてみていただきたいと思っています。私たちはこういっただけのこと

アせず、それらに目を瞑ったまま、施策を進めることに対しては、危機感を抱かざるを得ません。加えて、地震や豪雨、竜巻などの気候変動による影響が激しくなる中で、来春の常磐緩行線（常磐線各駅停車）や東武線、その後に続く計画がされた京浜東北線や山手線といった超過密線区で、本当にワンマン運転を進めて良いのかと危機感から、労働組合としての対案・代案をつくり、提示していきたいと考えています。

想像しなければならぬ、あつてはならない事故だったと考えています。この件についての記者会見は、東北本部長が定例会見で行ったのみであり、本社や新幹線統括本部は会見すらしていません。これは経営陣の危機感がないことの表れであると問う必要があると考えているため、早急に団体交渉の申し入れを行います。そして、原因究明と再発防止の視点を踏まえた抜本的な対策を求めています。

このほか、9年も続けてきた車軸の取り付け圧力のデータ改ざんの不正・隠蔽問題は、本日、東京総合車両センターに国土交通省による「特別保安監査」の立ち入りが行われています。経営の責任は明らかですが、不正を防ぐためにも職場から経営にモノ申す労働組合としての運動を強化していきます。

みどりの窓口の問題をはじめ現場を見ず、見ようもしない経営陣によって、人に優しくない、特に高齢者を排除するような施策が多く行われています。そして、利用者からは不満の声があがっています。現場で働く私たちも「お客さまの声が正しい」と感じていることも多くあります。労使議論の場で、社長をはじめ経営幹部に現場で一緒に働いてみることを提案しても一度もなく、利用者の声を聞くのが嫌なんだろうと想像できます。しかし、私たちは現場第一線にいるからこそ、このようにすればもっと利用しやすい鉄道になる、とか、こういうことを労働組合として考えていければ、地域や利用者の皆さんと手を取り合って良い社会が実現できると日々、実感しています。

こういった中で、JR東日本は新幹線のドライバレス化などを発表していますが、私たちは企業の社会的責任、CSRの観点を経営に求めています。それは、公共交通機関として、何人（なんびと）も安全に公平に輸送することが使命だと考えているからです。

私たちは「人に優しい輸送サービス労組」を合言葉に「人に優しい鉄道の実現」をめざし、この社会を人々が暮らしやすい社会に、そして命を大事にする国であるために貢献していきます。一緒に手を取り合っていきましょう。